

氏名 赤 尾 正 樹

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 博 甲 第 713 号

学 位 授 与 の 日 付 昭 和 63 年 3 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 医 学 研 究 科 外 科 系 麻 醉 学 専 攻

(学位規則第 5 条第 1 項該当)

学 位 論 文 題 目 重 症 患 者 の 起 炎 菌 に 対 す る 好 中 球 殺 菌 能 と B 細 菌 機 能 に 関 す る 研 究

論 文 審 査 委 員 教 授 金 政 泰 弘 教 授 木 村 郁 郎 教 授 折 田 薫 三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

グラム陰性桿菌による肺炎を合併した重症患者の感染に対する生体防御能を評価するため、起炎菌に対する好中球殺菌能とB細胞機能を測定した。好中球殺菌能は、ケミルミネッセンス法で評価した。B細胞機能はリンパ球数、リンパ球サブポピュレーションおよびT細胞サブセット（OKT-3、OKT-4、OKT-8、OK-IA1）と血漿免疫グロブリン値を測定した。

グラム陰性桿菌肺炎を合併した重症患者において、ザイモザンは起炎菌の代用としてケミルミネッセンス法に使用できないことが明らかになった。

血漿 IgG 値が上昇するにつれて、B細胞が低下していた。したがって、IgG かあるいは何等かのフィードバック機構が、B細胞の増殖と特異抗体産生を制御しているものと考えられた。

好中球の殺菌能が抑制されている症例の方が、血漿 IgG 値は上昇していることも認めた。IgG が高値を示す重症患者ではB細胞機能は低下しているので、起炎菌に対する好中球殺菌能とB細胞機能が低下し、感染に対する生体防御能は抑制されていると考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は重症患者の感染に対する生体防御能を評価するため、起炎菌であるグラム陰性桿菌に対する好中球殺菌能とB細胞機能を測定した。その結果、重症患者では両機能低下が起因して防御能抑制がもたらされることを明らかにし、重症患者治療面での重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。